



「最大の恐怖は、家を失うことだけでなく、歴史、アイデンティティ、そして未来を失うこと」

ヨルダン川西岸のパレスチナ難民の
イスラエル軍占領による精神的な被害についての
世界の医療団の報告書



概要

導入と調査方法

世界の医療団の報告書「**最大の恐怖は、家を失うことだけでなく、歴史、アイデンティティ、そして未来を失うこと**」は、イスラエル軍の占領がヨルダン川西岸のパレスチナ難民に及ぼす心理的影響について記録しています。2021年にも、世界の医療団は入植者の暴力と家屋破壊の被害を受けたパレスチナの農村コミュニティのメンタルヘルスに焦点を当てた報告書を発表しました。

今回の報告書は、パレスチナ難民が負った心理的被害に光を当てることで、その研究を補完し、占領がヨルダン川西岸の脅威にさらされている人々の、メンタルヘルスに及ぼす影響に関する世界の医療団の専門知識を強化しています。

本報告書は、当団体の臨床業務、当プログラムの定量データ、そして2024年1月から2025年3月にかけてジェニン、トゥルカレム、ヌールシャムス、アル・ファラア、アクバト・ジャブル、シュアファト、アル・ファワル、アル・アループの8つの難民キャンプで収集したパレスチナ難民の証言に基づいています。トラウマの追体験を避けるため、直接の証言は限定的とし、知見は主に世界の医療団のメンタルヘルス専門家によるフィールドワークから得られたものです。

データ収集期間中、世界の医療団は、これらの8つの難民キャンプで暴力にさらされた1600人以上のパレスチナの人々に対し、心理的応急処置（PFA）コンサルテーションを実施しました。この1600人のうち、172人が2回目のメンタルヘルス・心理社会的支援（MHPSS）訪問を受けました。症状分析に関する詳細なデータと統計は、2回目の訪問からのみ収集されています。

本報告書は、世界の医療団による30年以上にわたる心理社会的活動と、具体的な定量的・定性的なデータ収集に基づき、占領によるメンタルヘルスへの影響について具体的かつ実証的な洞察を提供するとともに、ヨルダン川西岸の難民キャンプで暮らす複数のコミュニティに共通するメンタルヘルスのパターンを浮き彫りにしています。

01

03

本報告書は、イスラエル軍による継続的、反復的、かつエスカレートする暴力が、イスラエル占領の影響を受けている最も脆弱で、過小評価されている集団の一つであるパレスチナ難民に、深刻かつ広範な心理的ダメージを与えることを浮き彫りにしています。2025年だけでも、ヨルダン川西岸では4万4000人以上の難民が強制的に避難させられました。これは1967年以来最大の規模です。これらのコミュニティは、継続的な暴力、頻繁な襲撃、強制退去、移動の制限に直面しています。

主な調査結果

- 世界の医療団が訪問したパレスチナ難民の98%が強い苦痛を経験しており、96%が占領によって日常生活が乱れていますと述べ、58%がストレスと不安の典型的な結果として睡眠障害を経験しています。
- 2025年、メンタルヘルス相談件数の急増がみられました。これは、メンタルヘルスの需要の大幅な増加を示しており、2025年1月に激化したイスラエル軍によるヨルダン川西岸地区難民キャンプへの軍事作戦によって説明ができます。世界の医療団は2023年9月からヨルダン川西岸地区で活動しており、難民資格を有するパレスチナの人々（月最大約100人）を受け入れていましたが、この数字は2025年2月には500人まで増加しました。
- 2024年1月から2025年3月の間に世界の医療団によるメンタルヘルスおよび心理社会的支援の2回目の訪問を受けた172人の難民資格を有するパレスチナの人々のうち、約70%に慢性的なストレス、絶望感、心身症、学習性無力感などの症状が見られました。¹
- 世界の医療団が訪問したパレスチナ難民の74%は、4ヶ月以内に複数の暴力事件に遭遇しています。イスラエル当局の政策は、非人間的で、繰り返され、エスカレートし、継続的な心理的被害をもたらしています。そして、安全、安定、地域社会からの支援、人道支援を含むケアへのアクセスといった、回復に必要なあらゆる条件を破壊しています。
- イスラエルの占領は、子どもたちの認知的、情緒的、そして社会的な発達を阻害し、家族や教育環境の保護機能を妨げ、基本的人権を侵害しています。子どもたちは信頼を失い、退行に苦しみ、子ども時代を経験することができません。

本報告書は、イスラエルの占領がヨルダン川西岸のパレスチナ難民に及ぼしている心理的被害の3つのパターンを特定しています。

(I) イスラエル占領による暴力の繰り返し、エスカレート、継続は、パレスチナコミュニティに計り知れない心理的苦痛を与えています。これは、不断の警戒状態、絶え間ない死の予感、絶望感、そして日常生活の深刻な混乱を特徴としており、占領は意図的に心理的被害を与える目的であるという認識によって、さらに悪化しています。

(II) イスラエル占領軍は、心理的治癒に不可欠な条件、すなわち安全、安定、対応のための時間と空間、コミュニティと家族の保護体制、安全な環境、そしてメンタルヘルスケアへのアクセスを積極的に破壊しています

(III) パレスチナの人々の精神的苦痛は、共通の過去の経験と未来への認識に根ざしており、世代を超えたトラウマと、物理的・象徴的なパレスチナの人々の消滅に対する実存的な恐怖に深く根ざしています。

02
03

¹ 平均すると、初回の診察を受けた人の6.5%～8.5%が2回目の診察を受けます。

結論と提言

本報告書は、繰り返し行われる軍事襲撃、住居侵入、強制移住、そして拘束が、パレスチナ難民に持続的な精神的危険を与えており、国連の特別報告者が定義する精神的拷問の特徴であると結論づけています。

世界の医療団は、パレスチナの人々の精神的な回復の必要条件として、占領の終結の必要性を改めて強調します。本報告書の調査結果に基づき、我々は第三国に対し、以下のことを求めます。

- 2024年7月の国際司法裁判所（ICJ）勧告的意見を執行し、軍の完全撤退と併合の終結を含む、占領終結に向けた即時かつ具体的な行動をとること。
- イスラエル当局に対し、民間人への攻撃や強制移住など、精神的拷問に相当する可能性のある行為を停止するよう圧力をかけること。
- 難民を含むすべてのパレスチナの人々の健康権（メンタルヘルスを含む）を確保し、難民の権利を包含する政治的解決を支持すること。
- 基本的なサービスの提供に不可欠な国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の任務を支持し、保護すること。
- 安全な人道支援アクセスを保障し、パレスチナの人々と公平な支援団体に影響を与えていた移動制限を解除すること。

03

03